

プロテクトン

PROTECTON®

インテリアウォール

VKコート

室内用高性能(抗ウイルス・抗菌)コーティング剤

ホルムアルデヒド放散等級
F☆☆☆☆

ウイルスに、**備えをON**

新世代ペイントテクノロジー [プロテクトン]

抗ウイルス
抗菌



まもるべき未来のために、 そのペイントテクノロジーは生まれた。 [プロテクトン]



ウイルスとともに生きる。そう言われる時代に、人びとの健康をまもりたい。安全で快適な未来をつくっていききたい。そのためペイントは、従来の概念を超えるイノベーションが必要でした。

日本ペイントグループが新たに開発した[プロテクトン]。

例えば、銅の働きにより、塗膜表面に付着したウイルスや菌を抑制するアンチウイルス機能を実現。今後、塗料製品にとどまらず、あらゆるシーンにお応えできるよう形を変えて広がっていきます。プロテクトン、そのテクノロジーは進化しつづける。リスクに備えるために。あなたの新しい日常に寄り添い、たいせつな人をまもるために。

塗膜表面に付着したウイルス・菌99%*抑制。

* 全てのウイルスや菌あるいは特定のウイルスや菌に対する効果を保証するものではありません。

また、病気の予防や治療効果を示すものではありません。

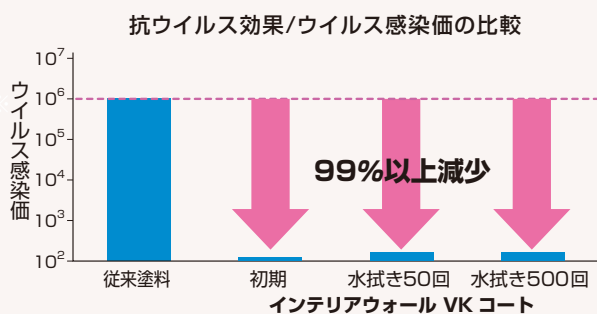
* 室内の空気中のウイルスや菌を抑制するものではありません。



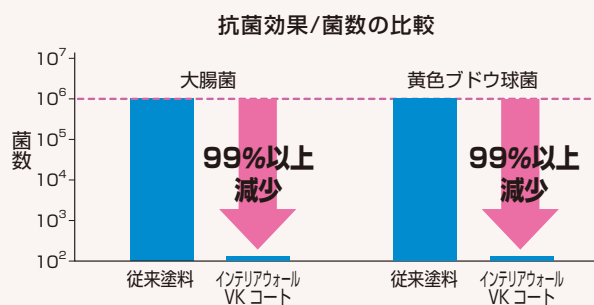
塗るだけで、塗膜表面に付着したウイルスや菌を抑制

抗ウイルス性・抗菌性

塗膜表面に付着したウイルスや菌を抑制する機能を発現します。



【抗ウイルス試験条件】
ISO 21702 に準拠し、塗膜試験片にウイルス液を滴下し、24 時間後のウイルス感染価を測定。
ウイルス種：A 型インフルエンザウイルス



【抗菌試験条件】
JIS Z2801 に準拠し、塗膜試験片に菌液を滴下し、24 時間後の生菌数を測定。
菌種：大腸菌、黄色ブドウ球菌

耐久性

薄膜でありながら耐久性があり、抗ウイルス・抗菌性が持続します。(上記左のグラフをご参照ください。)

*試験結果はいずれも社内試験で得られたものであり、実環境における効果を保証するものではありません。

安全・安心をプラスして、 すべての人が快適に過ごせる生活へ。 専用中塗りで、淡彩～濃彩までお好みの色とつやを選べます



マンション



戸建て



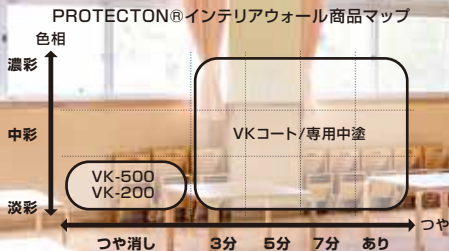
教育施設



商業施設



病院・介護施設



■ 用途

マンション・戸建て・教育施設・商業施設・病院など抗ウイルス・抗菌対策が求められる建物内部壁面に最適

■ 適用下地

コンクリート・モルタル・プラスターボード

■ 容量・荷姿

製品名	PROTECTON® インテリアウォール VKコート	PROTECTON® インテリアウォール VKコート 専用中塗
容量	2kg	15kg、4kg
色相	半透明	各色
つや	—	つや有り、7分つや有り、5分つや有り、3分つや有り

※ 仕上がりの色相、つやは専用中塗で発現しています。 ※ 使用原色の種類、隠ぺい性の関係上、目的の色相、つやに調整できない場合があります。

■ 乾燥時間

上塗り材	5～10℃	23℃	30℃	専用中塗り材	5～10℃	23℃	30℃
指触乾燥	3時間	2時間	1時間	指触乾燥	40分	15分	10分
塗り重ね乾燥	—	—	—	塗り重ね乾燥	8時間以上	4時間以上	3時間以上

※ 乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

■ 標準塗装仕様例

● 各種既存塗膜の塗り替え

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率	塗装方法
下地調整	被塗面の油脂分、ごみ、ほこり、劣化塗膜を除去、清浄な下地とする。						
下塗り	水性カチオンシーラー(透明/ホワイト)	1	0.10～0.16	4時間以上	透明:無希釈 ホワイト:水道水	— 0～10%	はけ・ローラー
中塗り	PROTECTON® インテリアウォール VKコート 専用中塗	2	0.13～0.15	4時間以上	水道水	0～10%	はけ・ローラー
上塗り	PROTECTON® インテリアウォール VKコート	1	0.015～0.020	—	無希釈	—	はけ・極短毛ウルローラー※ ・短毛こてばけ※

※1ローラーを使用の場合は毛丈3mm以下のものをご使用ください。ただし、下地の形状などにより塗装が困難な場合は、仕上がりを確認の上、適宜毛丈の長さを調整して下さい。

※2こてばけをご使用の場合は、素材ポリエステル、毛丈5mm以下のものをご使用下さい。

※上記の各数値は、標準的なものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、希釈率および測定機器・測定方法により増減します。

※上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

■ 主な適用下塗り塗料

水性カチオンシーラー(透明・ホワイト)、水性透明シーラー、水性ホワイトシーラー、水性シミ止めシーラーⅡ

■ 塗膜性能

試験項目	規格	社内試験
抗ウイルス性	フィルム密着法によるウイルス感染価測定 (ISO 21702に基づく)	合格
抗菌性	フィルム密着法による菌数測定 (JIS Z 2801に基づく)	合格

PROTECTON® インテリアウォール VKコート

施工上の要点と注意事項 ※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。

[PROTECTON® インテリアウォール VKコート]

1. 中濃彩色上では、つやむらが発生する可能性があります。試し塗りなどで確認の上、施工してください。2. 中濃彩色上に塗装する際、塗膜乾燥後に塗り継ぎすると塗り継ぎ部がつやむら・白ぼけとなるおそれがありますので、面を切って通して塗装する必要があります。塗り継ぎ部を極力作らないようにしてください。3. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。4. 容器に小分けする場合はポリ容器をご使用ください(鉄製、プリキ製は腐食します)。5. 塗装に使う道具(ローラー、ハンドルなど)には、腐食しやすいためアルミ材質のものを使用しないでください(アルミニウム含む)。また、錆の発生している道具を使用すると、錆の成分が塗料液に移るおそれがあるため、使用しないでください。6. 腐食のおそれがあるため、金属類へ直接塗装するのを避け、塗料・塗膜が直接触れないようにしてください。7. 中塗りには必ず専用中塗をご使用ください。8. PROTECTONインテリアウォールVKコートを塗装すると、塗装前と比較してわずかに光沢が上昇する傾向にあるので、下地の形状などにより、むらとして目立つ場合があります。極短毛ウールローラーや短毛こてばけなどを使用して、規定の塗り付け量をまもって、できるだけ均一に塗装してください。9. 塗料液が付着すると、ゴム製の保護具が変色することがあります。10. 塗り忘れ部位は抗ウイルス機能が発揮せず、塗装部位と異なる外観になります。塗装は、目地、面、足場板などで区切って行い、休憩などで塗装を中断する場合には、テープなどで目印をつけてください。11. 液だれしやすいため養生をしっかりと行ってください。また、ローラーもしくはこてばけで塗装する場合には、それらをよくしごいて塗装してください。12. 研磨、高圧洗浄など物理的に負荷をかけた場合、性能を発揮しなくなるおそれがあります。13. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の抗ウイルス機能が発現されない場合があります。14. 塗料は内容物が均一になるようによく混ぜてください。15. 希釈せずそのまま使用してください。16. 塗装面以外(ガラスなど)に付着した場合、速やかにシンナーなどで拭き取ってください(乾燥すると除去できない場合があります)。17. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。18. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。19. 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。20. 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けてください。21. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、影れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。22. 降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。23. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じる場合がありますが、時間とともになくなります。24. 動物のけは、はげが固まったりタマになったりしやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。25. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。26. 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。27. 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。28. シーリング面は、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがあります。29. 布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス(シリコン加工された水をはかると著しくはくクロス)には塗装できません。30. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。31. 氷点下で貯蔵すると凍ります。凍らないように5℃以上で貯蔵、保管してください。32. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。33. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗膜面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。34. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。35. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

[PROTECTON® インテリアウォール VKコート 専用中塗]

1. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。2. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。3. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。4. 塗料は内容物が均一になるようによく混ぜてください。5. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。6. 旧塗膜に発生した剥・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。7. 繊維質、耐火被覆用けい酸カルシウム板、ロッキングなどの非常に弱い素材には塗装できません。8. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ液浸透シーラー(新)、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラー、ファインパーフェクトシーラーをご使用ください。9. シーリングの上、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。10. やむを得ず付着している場合は、ウェスなどでやむを水拭きして除去し、被塗表面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥(目安23℃、6時間)させてから2回目の塗装をすることでやむ止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウェスなどで水拭きを行い、被塗表面を十分乾燥させてから塗装してください。11. 塩化ビニールクロスのはがれ、めくれ、浮きなどは接着剤で貼り付け、ローラーで圧着したり、類似クロスで面合わせしたりするなどあらかじめ補修してください。またクロスと接着剤が低下している場合、塗装することでクロスが浮き上がってくる場合がありますので、クロスの合わせ部などはあらかじめ接着剤などで押さえおくことが安心です。12. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケツ科学社製H1500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。13. 内壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。14. 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ液浸透シーラー(新)、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。15. 薄めすぎは隠れ力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。16. 冴たイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴た色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れ出来ない場合がありますので、事前に試験施工塗り板などでご確認ください。17. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。18. 濃彩色や冴た原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性がありますので、事前に試験施工塗り板などでご確認ください。19. 濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてご確認ください。20. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。また、大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。21. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。22. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。23. 塗装方法により色相が多少変化する場合があるので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。24. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。25. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。26. 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。27. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。28. 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けてください。29. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、影れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。30. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じる場合がありますが、時間とともになくなります。31. 動物のけは、はげが固まったりタマになったりしやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。32. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。33. 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。34. 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。35. 布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス(シリコン加工された水をはかると著しくはくクロス)には塗装できません。36. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。37. 氷点下で貯蔵すると凍ります。凍らないように5℃以上で貯蔵、保管してください。38. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。39. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗膜面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。40. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。41. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

安全衛生上の注意事項 [PROTECTON® インテリアウォール VKコート]

横倒禁止

■詳細な内容、表示以外の商品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。■下記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示と異なる場合があります。

[PROTECTON® インテリアウォール VKコート]


1. 取扱後は、手洗いおよびうがいを十分に行うこと。
2. 本来の用途以外に使用しないこと。
3. 口をすすぐこと。
4. 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
5. 容器からこぼれた時は、砂などを散布した後処理すること。

[PROTECTON® インテリアウォール VKコート 専用中塗]

1. 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
2. 取扱後は、手洗いおよびうがいを十分に行うこと。
3. この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
4. 環境への放出を避けること。
5. 本来の用途以外に使用しないこと。
6. 気分が悪い時は、医師の診察/手当てを受けること。
7. 口をすすぐこと。

6. 施設にて保管すること。
7. 直射日光や水濡れは厳禁。
8. 塗料等の缶の積み重ねは3段までとすること。
9. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄すること。

8. 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
9. 容器からこぼれた時は、砂などを散布した後処理すること。
10. 施設にて保管すること。
11. 直射日光や水濡れは厳禁。
12. 塗料等の缶の積み重ねは3段までとすること。
13. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄すること。

危険	危険有害性情報
	長期にわたる、又は反復く露による臓器の障害 水生生物に有害

日本ペイント株式会社

- | | | | |
|-------|---------------|------|---------------|
| 北海道支店 | ☎011-370-3101 | 近畿支店 | ☎06-6455-9608 |
| 東北支店 | ☎022-232-6712 | 中国支店 | ☎082-281-2180 |
| 関東支店 | ☎03-5479-3614 | 四国支店 | ☎0877-56-2346 |
| 北関東支店 | ☎03-5479-3614 | 九州支店 | ☎092-751-9861 |
| 中部支店 | ☎052-461-1960 | | |

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright © 2022 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <http://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.

NP-Z130

AA220210T

2022年2月現在

プロテクトン

PROTECTON®

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

フロア VKクリヤー


水性2液形床用抗ウイルスクリヤー塗料

ウイルスに、**備えをON**

新世代ペイントテクノロジー [プロテクトン]

抗ウイルス
抗菌





まもるべき未来のために、
そのペイントテクノロジーは生まれた。
[プロテクトン]

ウイルスとともに生きる。そうと言われる時代に、人びとの健康をまもりたい。安全で快適な未来をつくっていききたい。そのためにペイントは、従来の概念を超えるイノベーションが必要でした。

日本ペイントグループが新たに開発した[プロテクトン]。

例えば、銅の働きにより、塗膜表面に付着したウイルス・菌を抑制するアンチウイルス機能を実現。今後、塗料製品にとどまらず、あらゆるシーンにお応えできるよう形を変えて広がっていきます。プロテクトン、そのテクノロジーは進化しつづける。

リスクに備えるために。あなたの新しい日常に寄り添い、たいせつな人をまもるために。

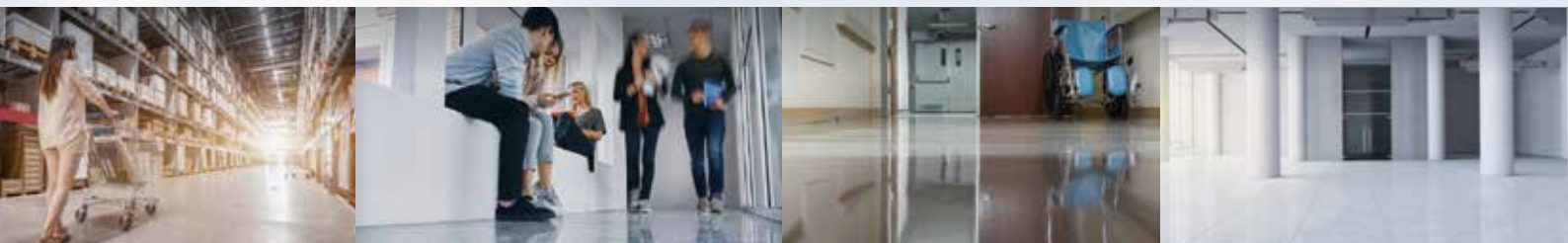
塗膜表面に付着したウイルス・菌99%*抑制。

*全てのウイルスや菌あるいは特定のウイルスや菌に対する効果を保証するものではありません。

また、病気の予防や治療効果を示すものではありません。

*室内の空気中のウイルスや菌を抑制するものではありません。

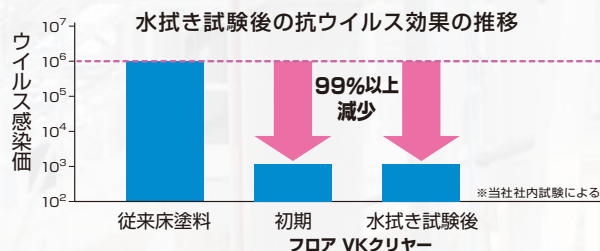
 **日本ペイントグループ**
Basic & New



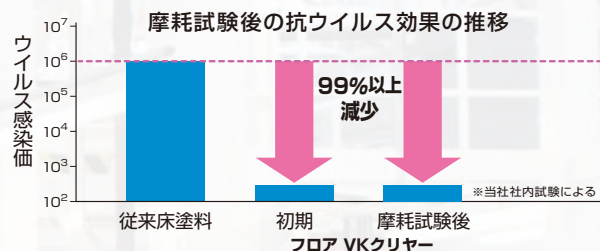
塗るだけで、塗膜表面に付着したウイルスや菌を抑制

抗ウイルス・抗菌性

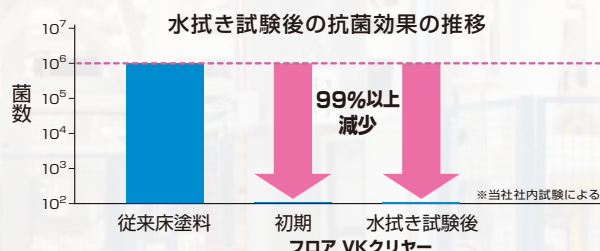
銅の動きにより、塗膜表面に付着したウイルスや菌を抑制する機能を発現します。
耐久性に優れており、清掃時の水拭き後や、歩行や車両タイヤによる塗膜摩耗後も、初期状態と変わらず、99%以上のウイルス・菌減少を確認しました。



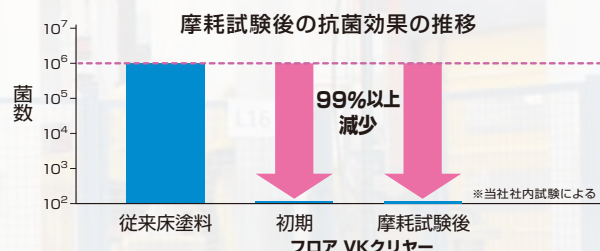
【抗ウイルス試験条件】
ISO 21702 に準拠し、塗膜試験片にウイルス液を滴下し、24 時間後のウイルス感染価を測定。
ウイルス種：A 型インフルエンザウイルス
※水拭き試験は、水にぬらした布で荷重 40kg / m² で 1000 往復実施。



【抗ウイルス試験条件】
ISO 21702 に準拠し、塗膜試験片にウイルス液を滴下し、24 時間後のウイルス感染価を測定。
ウイルス種：A 型インフルエンザウイルス
※摩耗試験は、日本塗理床工業会試験方法 NNK-004 2006 を参考に実施。



【抗菌試験条件】
JIS Z 2801 に準拠し、塗膜試験片に菌液を滴下し、24 時間後の生菌数を測定。
菌種：大腸菌
※水拭き試験は、水にぬらした布で荷重 40kg / m² で 1000 往復実施。



【抗菌試験条件】
JIS Z 2801 に準拠し、塗膜試験片に菌液を滴下し、24 時間後の生菌数を測定。
菌種：大腸菌
※摩耗試験は、日本塗理床工業会試験方法 NNK-004 2006 を参考に実施。

フロア VK クリヤー塗膜上では、大腸菌の増殖を抑制できることが確認されました



【試験条件】試験板に大腸菌液を滴下後、温度 37℃ 環境下で 24 時間静置。メチレンブルーを用いて菌を染色し、光学顕微鏡を用いて表面を観察。
※試験結果はいずれも社内試験で得られたものであり、実環境における効果を保証するものではありません。

■ 適用下地（内部・準外部）

コンクリート・モルタル・磁器タイル・各種既存塗膜下地

※アスファルトには適用できません。
※磁器タイルは種類により付着しないものがあるため、不明な場合は事前にテストを行い、付着性を確認してください。
※準外部および、水ぬれする環境においてはすべりやすくなりますので、必ず防滑仕上げで施工してください。

■ 用途

一般工場、店舗・事務所、通路・廊下・階段、倉庫・配送センターなど
抗ウイルス・抗菌対策が求められる屋内および準外部床面に最適

※外部への適用は営業までご相談ください。

■ 塗膜性能

試験項目	規格	社内試験
抗ウイルス性	フィルム密着法によるウイルス感染価測定 (ISO 21702) に基づく	合格
抗菌性	フィルム密着法による菌数測定 (JIS Z 2801) に基づく	合格

■ 荷姿・塗料性状

容量(セット)	塗料液:2.5kg 硬化剤:0.25kg 床クリヤー用付着強化剤:25g
色相	塗料液:淡青緑色クリヤー 硬化剤:無色 床クリヤー用付着強化剤:無色
つや	つや有り
混合比	塗料液:硬化剤 = 10 : 1
ポットライフ	(5℃)2時間 (23℃)2時間 (30℃)1時間
1セットあたりの塗装面積	平滑/防滑仕上げ:17~27.5m ² /回 タイル生地(平滑/防滑)仕上げ:30~55m ² /回

※2液形塗料は、塗料液と硬化剤の混合比を必ず守り、ポットライフ以内に使用してください。(硬化剤の過不足やポットライフ以降の使用は、塗膜性能に悪影響を及ぼします。)
※新設コンクリート生地仕上げ仕様、磁器タイル生地仕上げ仕様の防滑仕上げの場合は、1セットあたりクリンカラー防滑骨材を77g(付属スプーンすり切り5杯) 添加してください。
※磁器タイル面に塗装される場合は、1セットあたり床クリヤー用付着強化剤を1本(25g) 添加してください。

PROTECTON® フロア VKクリヤー

■ 標準塗装仕様例

● 新設コンクリート生地仕上げ仕様

仕上げ	塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤(希釈率)	塗装方法
平滑仕上げ	素地調整	新設コンクリート・モルタルは夏季30日以上、冬季40日以上養生させ、表面のpHが10以下、含水率が10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製H500シリーズで測定した場合)になってから施工してください。表面のレタンスや不純物は完全に取除いてください。					
	クリヤー	PROTECTON®フロア VKクリヤー	1	0.10~0.16	—	—	はけ・短毛ローラー

*緻密仕上げのコンクリート(機械押入)や強化コンクリートには適用できません。

● 磁器タイル生地仕上げ仕様

仕上げ	塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤(希釈率)	塗装方法
平滑仕上げ	素地調整	タイル面を補修したのち水洗いをし、十分乾燥させてください。 塗装面に付着したごみ、よごれなど付着物は密着不良の原因となりますので入念に洗浄除去してください。 エフロレシスはスクレーパー、ワイヤブラシなどで削り落とし除去してください。 洗浄剤などを用いる場合は、洗浄剤塗付前に、タイル面に十分に水を含ませてください。(事前に水を含ませることで洗浄剤による塗膜への悪影響を抑えます。) 洗浄後は十分に水洗い、乾燥してください。その後、pH試験紙などを用い塗装面が中性であることを確認してから塗装してください。(pH6~8)					
	クリヤー	PROTECTON®フロア VKクリヤー ニッペ 床クリヤー用付着強化剤	1	0.05~0.09	—	—	はけ・短毛ローラー

注)大理石、鏡面仕上げタイル、金属光沢を有するラスタールタイル、はっ水処理を施した素焼きタイル、グラファイトを施したいふしタイル、れんがタイル・素焼き風タイルへの施工は避けてください。その他、特殊なタイル面への施工については、試験施工により確認してください。

● 各種既存塗膜の塗り替え

仕上げ	塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤(希釈率)	塗装方法
平滑仕上げ	下地処理	はがれかかった既存塗膜や付着不良の既存塗膜は完全にケレン除去してください。既存塗膜がウレタン系または種類が不明の場合、研磨紙P40~P100あるいはポリシヤー(ワイヤー)にて表面を研磨し目粗ししてください。ごみ、ほこり、油脂類は除去し清潔な面としてください。 表面にワックスがある場合は水性ワックス用は、離剤でよく離し、水洗いを十分に乾燥し清潔な面としてください。ひび割れ、巣穴、不陸などは、あらかじめエポキシ樹脂パテなどを充填し平滑にしてください。					
	上塗り	ニッペ クリンカラー-U水性*	2	0.13~0.17	3時間以上48時間以内	水道水(3~7%)	はけ・ローラー
	クリヤー	PROTECTON®フロア VKクリヤー	1	0.05~0.09	—	—	はけ・短毛ローラー

*上塗りには、ニッペクリンカラー-U水性を一例として記載しています。下地の状況や用途、適用する上塗りの種類により、各塗料の標準塗装仕様に準じて塗装してください。
PROTECTON® フロア VKクリヤーが適用可能な上塗り:ニッペクリンカラー-Aベストつや有、Wベストつや有、Wハードトップ、U水性、Uベスト、Eベスト、Eワン、E20コテ用(新)
適用外の上塗り:ニッペクリンカラー-Aベストつや消、Wベストつや消、E導電、E30導電、マークガード
注)既存塗膜がニッペクリンカラー-Uファイナリや弾性塗床の場合は、PROTECTON® フロア VKクリヤーを塗装できません。既存塗膜の種類が不明な場合は、事前に試し塗りなどを行い、付着性を確認してください。
注)防汚仕上げの場合は、上塗り工程を骨材散布(紐砂6号または5号 0.05~0.30kg/m²)で防汚に仕上げた上に、PROTECTON® 707 VKクリヤーを塗装してください。

施工上の要点と注意事項 ※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。

1. 塗料液と硬化剤を混合後の塗料については、必ず使い切るようにしてください。2. 塗料液と硬化剤の反応に伴い、炭酸ガス(CO2)が発生します。混合後の塗料を密閉容器に保管しますと、炭酸ガスにより、容器内の圧力が高まることから、密閉容器への保管は避けてください。特に高温になる環境(夏場・車内等)では炭酸ガスの発生が促進し、ふたが飛び等のおそれがあります。絶対避けてください。3. 本製品を混合後に、塗料が余り、容器に保管する必要がある場合は、混合から翌日まで、ふたをせす保管してください。4. 万が一、混合後に密閉容器に保管してしまっ場合には、容器内部の圧力が上昇しているおそれがあります。容器のふたを開ける際、ガス圧力により塗料が飛散するおそれがあることから、ウエス等でふたを覆い、あらかじめガス抜きを実施した後、ふたを開けるようにしてください。5. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。6. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。7. 大理石、鏡面仕上げタイル、金属光沢を有するラスタールタイル、はっ水処理を施した素焼きタイル、グラファイトを施したいふしタイル、れんがタイル・素焼き風タイルへの施工は避けてください。その他、特殊なタイル面への施工については、試験施工により確認してください。8. 目地部が深く、ローラーなどで入りきれない場合は、目地はけなどで塗装してください。9. 目地部の塗料が残りや被塗表面にダレを発生させる際は、目地はけ、ローラーなどでむら切りし、除去してください。10. ワックスを使用している床面は付着阻害を起すので、ワックス用はく離剤などで除去し水洗いを十分に乾燥後、塗装してください。11. 施工後、車両のタイヤ、ゴム長靴やコード類など可撓性を含むものを置くことと軟化し粘着性が生じますので、置かないでください。12. 厚く塗り過ぎると乾燥が遅れたり、ひび割れが入ったりしますので、厚付けに注意してください。13. 旧塗膜が何回も塗り重ねられている場合、塗膜全体が柔らかくなっている場合があります。この場合、そのまま塗り重ねると塗膜の物性差によって塗膜割れが発生するおそれがありますので、旧塗膜をはく離してから塗装してください。14. 軽歩行は塗装後、4時間以上経過した後より可能ですが(23℃)、車両の走行は塗装後72時間が経過した後に行ってください。早期の使用は、塗膜がはがれたり、線跡、タイヤ跡などの不具合が生じます。15. アスファルト面への塗装は、割れやひびきが発生するおそれがありますので避けてください。16. 旧塗膜がエポキシ系、ウレタン系の場合は、ポリシヤー・ガンダーで表面を目粗ししてください。17. 常時、水が溜まる箇所は傾斜をと、排水溝を設けるなどして、排水処理を行ってください。18. 常時水がかかる可能性のある場所、または水から塗膜の裏面から水分が返る可能性がある場所にはニッペクリンカラー-Eレジモルクリヤー(新)を使用した塗装仕方で塗装してください。19. 下地表面の油脂や汚れは溶剤などで十分に除去してください。20. 下地コンクリート表面のイタンス、エフロレシスなどの粉化物、ぜい弱部は十分に除去してください。ひび割れ、巣穴、不陸などがある場合、旧塗膜にはがれがある場合には、あらかじめエポキシ樹脂パテなどを充填するなど、段差修正や部分補修などを行い、平滑な面にしてから塗装を行ってください。21. コンクリート、モルタル等に塗装する際はぬれ色になる場合や、下地の状態により吸い込みむらになる場合があります。不安な場合は試験施工を実施して仕上がりをご確認ください。22. 生地仕上げの場合ひび割れ、巣穴、不陸をエポキシ樹脂パテ等で補修した箇所はそのままの外観となります。23. 塗り替え時で、旧塗膜が弾性の場合は使用しないでください。24. 旧塗膜の種類が不明な場合には必ず試験施工で適性を確認してください。塗り替えの際、旧塗膜の劣化状況や付着状況、または使用環境などによりシーラーレスタイプの塗料でもプライマーが必要な場合があります。25. クリンカラー-防汚骨材を配合した塗料はすみやかに使いきってください。長時間放置されますと骨材が沈殿もしくは浮いてきます。ご使用の際は、必ず使用量にあわせて割合し、使い切りとしてください。26. 施工に関する詳細な注意事項はクリンカラー-施工マニュアルをご参照ください。27. 抜け毛の少ない毛丈の短いローラーを選定し、施工してください。28. 工場での出入り口付近などの砂や砂利がタイヤで巻き込みやすい箇所は塗膜が摩耗しやすいとなります。29. 塗料は内容物が均一になるようによくかき混ぜてください。30. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風の少ない場合は、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きで除去してください。31. 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。32. 硬化剤は湿気で硬化しますので密閉して貯蔵してください。33. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清潔な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。34. 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を溶剤剥離や縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認ください。35. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製H500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。36. 表面のごみ、ほこり、エフロレシス、レタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。37. 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。38. 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分にしてください。39. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。40. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。41. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。42. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず覚えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。43. 塗装面以外に付着した場合は、乾燥するまでにラッカーシンナーまたは塗料用シンナーで洗い落とすようにしてください。44. ローラー、はけなどは、ほかに塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。45. 塗料漏洩の原因となりますので、保管・運搬時に容器を横倒ししないでください。46. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご確認ください。

安全衛生上の注意事項 [PROTECTON® フロア VKクリヤー]

横倒禁止

[PROTECTON® フロア VKクリヤー] ■詳細な内容、表示例以外の商品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

1. 取扱後は、手洗いおよびうがいを行うこと。
2. 本来の用途以外に使用しないこと。
3. 口をすすぐこと。
4. 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
5. 塗料液/容器からこぼれた時には、砂などを散布して後処理してください。
硬化剤/容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管すること。
6. 施錠して保管すること。
7. 直射日光や水濡れは厳禁。
8. 塗料等の缶の積み重ねは3段までとすること。
9. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄すること。

*上記の表示は一例です。容器の表示と異なる場合があります。

[ニッペ 床クリヤー用付着強化剤] ■詳細な内容、表示例以外の商品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

危険	危険有害性情報
	重篤な眼の損傷/(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ 遺伝性疾患のおそれの疑い/生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 長期継続的影響によって水生生物に有害

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608
東北支店 ☎022-232-6712 中国支店 ☎082-281-2180
関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346
北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861
中部支店 ☎052-461-1960

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright © 2022 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <http://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.

NP-Z149

AA220305T

2022年3月現在

自動車内装用 抗ウイルス・抗菌コーティング剤

新世代ペイントテクノロジー
[プロテクトン]

抗ウイルス
抗菌

プロテクトン

PROTECTON®

カーインテリア VKコート



安心な車内で安全運転

抗ウイルス・抗菌・消臭効果

可視光応答型ハイブリッド光触媒
酸化チタンと金属イオンの効果を併せ持った
可視光応答型ハイブリッド光触媒

高外観

光触媒粒子の均一分散技術
基材劣化抑制技術
スプレー塗布適正

高耐久・持続性

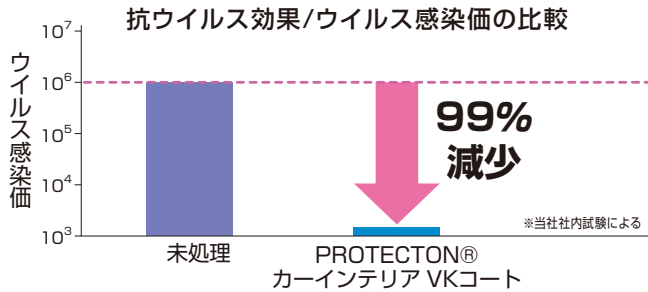
幅広い基材への固定化技術
約1年間の効果持続 ※当社社内試験による

※すべてのウイルスや菌あるいは特定のウイルスや菌に対する効果を保証するものではありません。また、病気の予防や治療効果を示すものではありません。
※空気中のウイルスに対する効果や、感染予防効果を示すものではありません。
※被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により性能に差異が生じることがあります。また、被塗物の使用条件によって効果の持続性に差異が生じることがあります。

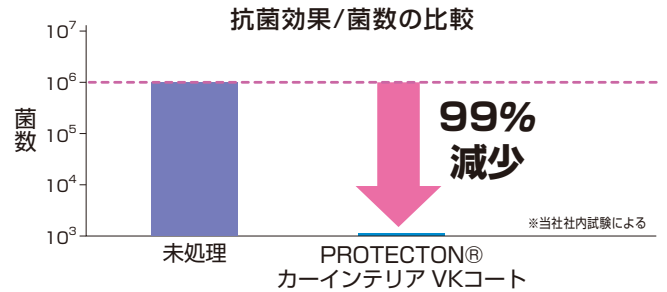
※写真はイメージです

抗ウイルス・抗菌性

可視光応答型ハイブリッド光触媒により、表面に付着したウイルスや菌を抑制する機能を発現します。



【抗ウイルス試験条件】
JIS R 1756 に準拠し、塗膜試験片にウイルスを滴下し、照度 500lx で 4 時間照射後のウイルス感染価を測定。
ウイルス種：バクテリアファージ Q_B

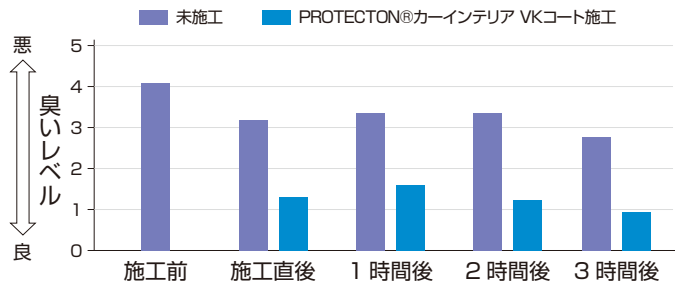


【抗菌試験条件】
JIS Z 2801 に準拠し、塗膜試験片に菌液を滴下し、24 時間後の生菌数を測定。
ウイルス種：黄色ブドウ球菌

消臭効果

※消臭効果は個人差があります。

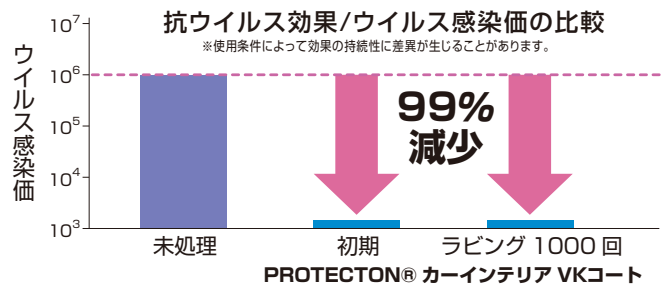
可視光応答型ハイブリッド光触媒により、消臭効果を発現します。



【消臭効果社内試験条件】
たばこの臭いを染み込ませた布を車内に設置。30 分間窓を開けた状態で、本製品を施工した後の臭いレベルを官能評価にて実施。

耐久性・持続性 (1年相当)

無機・有機バインダーの固定化技術により、抗ウイルス効果を持続します。



【抗ウイルス試験条件】
JIS R 1756 に準拠し、塗膜試験片にウイルスを滴下し、照度 500lx で 4 時間照射後のウイルス感染価を測定。
ウイルス種：バクテリアファージ Q_B
※ラビング回数は週3回×清掃拭き回数6回×52週施工面を爪を立ててクロスで強くこする事を想定した回数
500g荷重×1000回 摩耗子:ネル

■ 製品仕様

品名	PROTECTON® カーインテリア VKコート
成分	エタノール、イソプロパノール、精製水、可視光応答型ハイブリッド光触媒、固定化剤、光安定剤、金属錯体
液性	弱アルカリ性
内容量	1.03L
製造元	日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社

■ 特長

可視光応答型ハイブリッド光触媒、および分散・固定化剤により、
 ・車内での実使用環境において高い耐久性を有します。
 ・コーティングによる車内の大きな外観変化はございません。
 ※全てのウイルスや菌あるいは特定のウイルスや菌に効果を保証するものではありません。
 ※実際の使用環境によって効果の程度や持続期間は異なります。

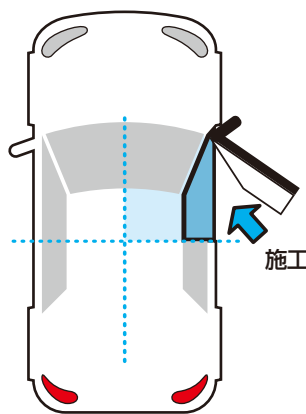
■ 用途

自家用車・タクシー・レンタカーなどの抗ウイルス・抗菌対策が求められる車内装部材に最適です。
 ・シート ・天井 ・ステアリング ・スイッチ類 ・シートベルト ・シフトノブ ・ダッシュボードなど

■ 標準塗装仕様

スプレーガン口径	エア圧(手元)	吐出量	ガン距離	塗装回数
1.3mm	0.01MPa~0.025MPa	1回転	30cm	2~3回

※アネスト岩田 WIDER1-13H2G(口径1.3mm、重力式)使用時の条件



- カーナビ画面やカメラセンサー等電子機器をマスキングテープで養生し、窓は全て開けた状態にしてください。
- 車内を4分割して塗装を行います。(4ドア/2列シート車両、使用量=約100g)
- ドアを開け、開けたドアや座席シート、ダッシュボード、天井、センターコンソールなどを1区画塗装回数3往復(80秒)を目安に塗装します。パターンを1/2重ね、ガン速度は約1m/秒を目安に全体を均一にムラなくダスト吹きイメージで塗装します。
- 塗装終了後、ドアを閉め、同じ要領で残り3区画を塗装します。

※詳しくは施工仕様書をご確認のうえ、施工してください。



使用上の注意事項

- ・換気の良い場所でお使いください。気分が悪くなった場合は、通気の良い場所で安静にし、医師の診察を受けてください。
- ・アルコール過敏症や皮膚の弱い方が使用される場合には、肌荒れ等にご注意ください。
- ・ミストを吸入しないようにしてください。呼吸器疾患の方は十分に注意してご使用ください。
- ・必要に応じて保護めがね、保護手袋を着用し、直接皮膚に触れないように注意してください。もし触れた場合、布等で十分に拭き取り、中性洗剤で洗ってください。炎症が生じた場合は、医師の診察を受けてください。
- ・目に入らないよう注意してください。万が一眼に入った場合は水で数分間注意深く洗い流し、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・万が一飲み込んだ場合は大量の水を飲ませて、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・気温または躯体温度が5℃以上、35℃以下を保てない場合や湿度80%以上での塗装は避けてください。
- ・施工時はエンジンを切り、直射日光を避け、炎や火気の近くで使用しないでください。
- ・人体やペットなどの生き物や食品・食器など経口摂取の懸念があるものに向けてスプレーしないでください。
- ・カーナビ、TV画面や運転支援システムのカメラセンサー等はマスキングテープ、養生テープ等でカバーし、塗装しないでください。
- ・極端に暑い場所や氷点下の寒い場所での保管を避け、直射日光の当たらない涼しいところに保管してください。使用後はすぐに蓋を閉めて、同様に冷暗所に保管してください。
- ・濃色系の被塗物へ塗布する場合は、目立たない部分でテストしてから塗装してください。また、素材の変質や白化を防ぐため、被塗物がコーティング液で濡れるような状態は避けてください。必要に応じて養生をお願いいたします。
- ・塗装面が水で濡れている場合は塗装を避け、乾いた布で拭き取って塗装面を乾いた状態にしてから塗装してください。
- ・塗装面が濡れていると、塗装した際に塗りムラとなる場合や、塗膜として必要な強度が確保されない場合があります。
- ・ファブリックシートなど撥水防汚コートしている場合、抗ウイルス剤の固着性が低下し、抗ウイルス機能の持続性が低下する場合があります。
- ・施工後は汚れ等を柔らかい乾いた布で乾拭きをすることは可能ですが、強くこすったりするのは避けてください。摩擦により耐久性が低下する可能性があります。
- ・誤飲や誤使用を避けるため、使用後は小児や認知症の方の手の届かない所に保管してください。
- ・他の容器には詰め替えないでください。
- ・他の商品や水道水とは混合しないでください。
- ・内容物を破棄する場合は各自自治体のルールに従ってください。
- ・製品安全データシートをよく読んで取り扱ってください。

※塗装条件、環境などにより、塗膜の本来の耐久性能が十分に発揮されない場合があります。
 ※本製品は感染予防を保証するものではありません。すべての菌やウイルスに対して効果が認められているものではありません。
 ※記載データ、数値等は、信頼に定る内外の技術情報および細心の注意を払って行った試験に基づくものであり、保証値ではありません。
 また、記載データ、数値等は製品の改良により、予告なしに変更または更新することがあります

安全衛生上の注意事項

横倒禁止

[PROTECTON® カーインテリア VKコート]

1. 取扱い後は、手洗いおよびうがいを行うこと。
2. 本来の用途以外に使用しないこと。
3. 口をすすぐこと。
4. 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
5. 容器からこぼれた時は、砂などを散布した後処理すること。
6. 施錠して保管すること。
7. 直射日光や水濡れは厳禁。
8. 塗料等の缶の積み重ねは3段までとすること。
9. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄すること。

■詳細な内容、表示例以外の商品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

警告	危険有害性情報
	引火性液体及び蒸気 強い眼刺激 臓器の障害のおそれ 長期にわたる、又は反復曝露による 臓器の障害のおそれ

日本ペイント・オートモーティブコーティングス

〒573-1153 大阪府枚方市招提大谷2-14-1
 ☎ 072-857-5530(代)

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright © 2022 Nippon Paint Automotive Coatings Co., Ltd. All rights reserved.

カタログNo.

NP-Z136

BD220201T

2022年2月現在